

平成 26 年度第 1 回知床世界自然遺産地域連絡会議

議事概要

平成 26 年 9 月 17 日 13:30 ～ 15:30

羅臼町公民館 大集会室

議 事

1. 平成 26 年度知床世界自然遺産地域連絡会議役員について
2. エゾシカ・ヒグマ対策について
3. 河川工作物の取扱い及びサケマスの上昇状況について
4. 適正利用・エコツーリズム検討会議について
5. 地域からの情報提供
6. 知床国立公園 50 周年・世界遺産 10 周年記念事業について
7. 上記以外の実施事業について
8. 科学委員会の報告
9. 第 36 回世界遺産委員会決議の対応について
10. その他

●開会挨拶（釧路自然環境事務所長）

釧路自然環境事務所の西山でございます。本日はお忙しいなか、お集まりいただきありがとうございます。

今年で知床国立公園の指定から 50 周年、来年で知床世界自然遺産の登録から 10 周年ですが、地域の方々と協力し合いながらこのような節目を迎えることができたことを嬉しく、またありがたく思います。

前回の地域連絡会議ではこの会議をどうしたらより活発にできるか話し合いをさせていただきました。それを踏まえまして、本日は、行政で実施している事業の報告だけではなく、最近行われた地域の取組みを紹介していただけることとなっております。地域の取組みと世界遺産の管理が上手く連携していることが大切なことであると思っておりますので、本日は忌憚のない意見交換ができればと思っております。

本日は都合がつかなかった方もいられ、いつもの顔ぶれと思われるかもしれませんが、地域連絡会議として、お集まりいただけるのは年に数回でありますから、お気づきの点等がございましたら遠慮なくご発言いただけますようお願いいたします。

議題 1. 平成 26 年度知床世界自然遺産地域連絡会議役員について

- 資料 1：知床世界自然遺産地域連絡会議 平成 26 年度役員名簿

…環境省より説明

質問・意見なし（一同異議なし）

議題 2. エゾシカ・ヒグマ対策について

- 資料 2 別添 1：知床半島エゾシカ保護管理概要図

別添 2：エゾシカ A 地区（ルシヤ地区）におけるエゾシカ個体数調整の検討スケジュール

…環境省より説明

- 資料 2 別添 3：知床世界遺産隣接地域（斜里側）でのエゾシカ捕獲検討案

…林野庁より説明

- 資料 2：H26 ヒグマ目撃件数等

…知床財団より説明

- 資料 2 別添 4：平成 26 年度岩尾別川ヒグマ等事故防止対策について

…環境省より説明

- ✓ H25 シカ年度のエゾシカ個体数調整（捕獲）結果は、計 813 頭である。内訳は、遺産地域内の環境省による捕獲が 424 頭、隣接地域の林野庁、両町による捕獲が 389 頭である。
- ✓ 主要な越冬地であるルシヤ地区で、今年度から 3 カ年かけて捕獲手法の検討を行っていく。今年の 6 月に GPS 首輪をメス成獣 2 頭に付けたが、その行動を見ると、ほとんど移動せずルシヤ地区にいたことがわかった。冬も引き続き移動状況について調べていく。
- ✓ 平成 25 年度から斜里町の隣接区においても捕獲事業を実施しており、今年度以降も捕獲事業を実施していく。困いわな等による捕獲は 10 か所程度、銃器による捕獲は遠音別地区において今年度は 1 か所、来年度以降は 2 か所を実施することを検討している。また、一般狩猟のための林道除雪は遠音別地区、真鯉地区で 1 か所ずつ検討している。
- ✓ ヒグマの目撃件数等について、昨年度は少なく、一昨年度は異常に多かったが、今年度は平年並みである。
- ✓ 今年度はカラフトマスの遡上が量的に少なく、遡上が遅れた一昨年度と似たような状況であるが、ハイマツやナナカマドなどの山の実りがよく、平穏な状態が続いている状況である。
- ✓ 昨年度、岩尾別川に特定のヒグマが出没したが、今年度は下のふ化場での捕獲数が達成されていなくサケ科魚類の遡上が行われていないことから、ヒグマが出没する状況にはなっていない

いない。

- ✓ 関係者で話し合い、岩尾別川においてヒグマ等による事故を防止するため、駐車ができないよう路肩へのロープの設置や、待機スペースの確保、監視員の配置といった対応を実施している。

質問・意見なし

議題 3. 河川工作物の取扱い及びサケマスの遡上状況について

■資料 3：河川工作物の取扱い及びサケマスの遡上状況調査について

…林野庁より説明

- ✓ サケマス遡上調査では、イワウベツ川、サシルイ川、ルシャ川では、改良したダムの上流域の産卵床の割合が高く、ダム改良の効果が出ている結果となった。
- ✓ 淡水魚の生息等調査では、河川工作物の設置されている河川の方が、設置されていない河川に比べ、水温が高く、オシヨロコマの生息密度も少ないという結果になった。
- ✓ 改良による効果の可能性のあるものの、防災機能等への影響が大きいため「現状維持」とされていた 35 基について検討をしていくこととし、そのうちのオッカバケ川とモセカルベツ川の河川工作物について現地調査を行いながら具体的な改良手法の検討を進めていく。

質問・意見なし

議題 4. 適正利用・エコツアーリズム検討会議について

■資料 4-1：適正利用・エコツアーリズム検討会議について

…環境省より説明

■資料 4-2：知床岬赤岩地区羅臼昆布エコツアー

…羅臼町観光協会より説明

- ✓ 7 月に開催した検討会議で、赤岩地区昆布ツアーが非営利を条件にモニターツアーとして実施することで承認された。
- ✓ 知床五湖では、ヒグマ活動期における適正な範囲での利用者の増枠と地上歩道の 2 ルート併用という新制度の運用を開始した。また、知床ウトロ海域環境保全協議会では、野生動物と人との適正な関係の周知、協議会の自立化（安定運営）等を目的とし、知床ウトロ海のハンドブックを発行した。

- ✓ 知床岬赤岩地区羅臼昆布ツアーは今夏、2回のモニターツアーを実施した。
- ✓ 参加者を対象にアンケート調査を行ったところ、ツアー全体の満足度について、7割が満足と回答した。また、「今後このツアーを継続することについて、どのように考えるか」について、全員が「継続すべき」と回答した。
- ✓ 知床は原生的であると思われがちだが、自然と人間が共生してきた歴史があることを、このツアーを通して知ってほしいと願っている。
- ✓ 平成27、28年度とモニタリングを続け、検討会議でモニタリングの報告と新たな提案内容を説明して進めていく予定である。

環境省（中島）：昆布ツアーは、マスコミにも多く取り上げられていたが、どれぐらいのマスコミに取り上げられたのか、また、どのようなトーンで報道されたのか教えていただきたい。

羅臼町観光協会（池上）：テレビ放送では、NHKとHBCの2局で報道されたことを確認している。NHKは検討会議がどのように行われているかということを中心に、その中の一つとして地元から出された提案が承認されたという報道であった。HBCは検討会議というよりも地元発の新規の取組みがはじまったというように、こちら側からの目線で発信していただいた。新聞各社では朝日新聞、北海道新聞、釧路新聞で取り上げていただいた。

議題5. 地域からの情報提供

■資料5-1：知床活性化プロジェクト実行委員会（案）について

…環境省より説明

■資料5-2：第1回しれとこ羅臼こんぶフェスタ事業報告書

…羅臼町活性化ワーキンググループより説明

- ✓ 平成25年から、知床のウトロ側の活性化のため、知床温泉旅館協同組合活性化委員会を中心に話し合いが行われている。
- ✓ 今後の取組みについて、地域連絡会議のような場で報告してもらい、議論をできればいいと考えている。
- ✓ 羅臼町では、町を活性化させたいと考える若手が集まり「羅臼町活性化ワーキンググループ」が立ち上がり、今年度は、羅臼昆布にスポットを当てた「しれとこ羅臼こんぶフェスタ」を開催した。
- ✓ 今後は、こんぶフェスタだけではなく、羅臼町の将来を担う若者として、様々な活動を通して地

域を活性化させたいと考えている。

環境省（高瀬）：私も環境省職員としてではなく、一町民としてこんぶフェスタ実行委員会に参加させてもらった。私が担当したのは昆布を採る作業を来客者に体験してもらうところであったが、町民の中でも採ったことがない人もおり、やっている側も勉強になり、町民の方に対しても良い取組みだと思った。赤岩地区昆布ツアーもそうであるが、羅臼昆布に着目してこのような取組みを行うのは良いことだと思う。お聞きしたいのだが、この取組みは、報道機関や他の自治体から注目されたと聞いているが、どのような形で、どのような方から注目されたか教えていただきたい。

羅臼町活性化ワーキンググループ（坂本）：近隣の自治体の方から、どうしてこのような取組みになったのかという経緯や、また、どのようなことに気を付けて取組みを行っているのか質問があった。また、女性や町内の方が多く関わっている取組みということで、男女参画という部分からも北海道知事が羅臼町を訪れた際に、話しをさせていただいた。あと、昆布漁をPRしている羅臼以外の漁協さんから、作業体験を通した昆布漁のPRということで、体験メニューをどのように運営しているかや、どのような準備が必要なのかなど数多く質問が寄せられた。根室で開かれた歯舞のこんぶ祭りでは、羅臼こんぶフェスタの1日目で行った船で昆布を採る作業体験をさっそく取入れて、新聞にも載ったようである。このようにいろいろな機関から問い合わせがあった。

環境省（中島）：とても興味深く、これからも楽しみな取組みだと思いながら聞いていた。質問があるのだが、実際に昆布を採っている漁師さんの感想や、反応はどうであったのか。

羅臼町活性化ワーキンググループ（坂本）：こんぶフェスタに携わっていただいた漁師さんと反省会を開いたのだが、その中で出た意見として、昆布を採っている時期なので、自分たちはPRをできないけど、残りの町民で羅臼昆布を盛り上げてくれる活動をしてもらえるのはありがたいという意見をもらった。それと同時に、羅臼町活性化ワーキンググループやフェスタの実行委員会だけではなく、行政や大きな漁業団体も羅臼にはあるので、そのような方たちも腰を入れて、こんぶフェスタだけではなく、地域活性化につなげていくきっかけにしてほしいと言われている。私達もそのところを忘れることなく、地域と連携して、活性化に取組んでまいりたい。

環境省（松永）：一観光客としての視点なのだが、羅臼では時期になると相泊までの浜に昆布漁の船がたくさん並んでいて、昆布作業を行っており、浜に降りてはいけないと思いつつ、何をやっているか間近で見たい気持ちがある。そういった意味で今回のフェ

スタで昆布漁を体験ができるのは良い取り組みであると思う。ただ、道の駅だけではなく、相泊やルサに行くまでのところで見学できる場所やアレンジをしてくれる方がいれば羅臼の中でも周遊感があると感じたのだが、漁師さんが本格的にこのような取組みと一緒にやってもらえるなど、本業があるので難しいと思うが、将来的な展望があればお聞かせいただきたい。

羅臼町活性化ワーキンググループ（坂本）：教育旅行の現場でも漁協や漁師さんには協力いただき、羅臼町ではいろいろな体験プログラムを展開させてもらっている。これから先も協力いただいて今のスタンスの中で進めていければと思っている。ただ、今回、昆布に特化して漁師さんとフェスタを開催した中で、漁師さんでもこういうことをやりたいというアイデアを多く持っていた。今後、私達や行政などの力がなくても、漁師さんが自分たちの活性化に向けて取組んでいくきっかけになるのではないかとと思っている。漁師さんは、私達よりもいろいろなアイデアを持っており、表に出してない思いもあるので、今回のイベントで火をつけて一緒になって取り組んでいければ良いと思っている。

環境省（西山）：冒頭でも取り上げたが、このような地域発の取組みといったものが増えていったら良いと思うし、それが世界遺産地域の管理と上手く連動していってくれたら良いと思う。本日の会議では、地域からの情報提供という議事がメインイベントだと考えており、報告いただいたものの他に、地域からの情報提供がありましたらご発言いただければと思う。

羅臼町観光協会（池上）：観光協会の関係で、坂本さんが事務局長となって実施したこんぶフェスタをそばで見させていただき、伝えたいことがある。観光協会の中でもこういうことをやりたいという強い思いを持った人たちがいて、補助金はないのかというような状況であったが、観光協会としては消極的な立場で、やりたい気持ちだけが宙ぶらりんになったとき、坂本さんが事務局長としてやりましょうと言ってくれた。誰か一人でも最後まで付き合ってくれば事業は進むものだと思うし、また、そのようなときに協会長は、とことん付き合ってくれと言ってくれた。実行する人が所属する団体が、その活動を認めてくれるという体制が整っていれば、うねりとなって進んでいくと思う。どうしていいかわからない力は町じゅうに転がっていると思うので、上に立つ人たちはそれらを拾っていく努力が必要ではないのかと思う。

環境省（西山）：羅臼町活性化ワーキンググループのみなさま、また知床活性化プロジェクト実行委員会のみなさまには今後も情報交換していただく場面があるかと思いますが、引き続きよろしく願います。

議題 6. 知床国立公園 50 周年・世界遺産 10 周年記念事業について

- 資料 6-1：「知床国立公園 50 周年・世界遺産 10 周年記念事業」について
…北海道より説明
- 資料 6-2：知床国立公園 50 周年記念シンポジウム
…斜里町より説明
- ✓ 平成 26 年 6 月 1 日に周年事業開始式を開催し、来年 7 月まで周年記念事業を展開していく。
- ✓ 平成 26 年 11 月 1 日に知床自然センターで知床国立公園 50 周年記念シンポジウムを開催する予定である。

質問・意見なし

議題 7. 上記以外の実施事業について

- 資料 7-1：知床世界遺産センターの展示改修について
- 資料 7-2：パンフレット「羅臼の海鳥」
…環境省より説明
- 資料 7-3：平成 26 年度北海道事業の報告（主な実施事業）
…北海道より説明
- ✓ 平成 25 年度に知床世界遺産センターの展示改修を行い、タブレット端末の導入や知床の魅力を伝える映像作成を行った。
- ✓ 近年、知床にバードウォッチングで訪れる観光客が増えていることから知床の海鳥を紹介するパンフレットを作成した。
- ✓ 北海道では、羅臼岳登山における携帯トイレの利用を促すためのリーフレットの作成や、カムイワッカのマイカー規制等を周知するためのリーフレットの作成を行った。

知床エコツーリズム推進協議会（代田）：知床の映像の DVD について、こちらは遺産センター以外の施設でも上映できるとのことだが、どこかの施設でなくてはいけないのか。貸し出しは行っていないのか。

環境省（松永）：自由に貸し出しはしており、施設を含め上映していただける。

知床エコツアーリズム推進協議会（代田）：1つの内容で3～5分の上映時間であり、5つの内容が収められているから、全部の上映時間は最大35分ということか

環境省（松永）：その通りで5つ合わせれば、上映時間は30分程度になる。

議題8. 科学委員会の報告

■資料8：平成26年度知床世界自然遺産地域科学委員会の報告

…環境省より説明。

質問・意見なし

議題9. 第36回世界遺産委員会決議の対応について

■資料9：第36回世界遺産委員会決議の対応について

…林野庁より説明。

- ✓ 第36回世界遺産委員会決議について、平成27年2月1日までに河川工作物の改良の取り組みとトドの状況について報告する必要があるため、関係機関で報告書の作成を行っている。

質問・意見なし

議題10. その他

■資料10-1：網走東部流域の地域管理計画等の策定に関する地元意見交換会の開催及び参加者の募集について

■資料10-2：北海道国有林の森林認証取得について

…林野庁より説明。

- ✓ 網走東部流域に所在する国有林野に係る地域管理経営計画等の策定にあたり、地元意見交換会を開催する。
- ✓ 森林認証を取得した地域を網走東部及びむかわ町内の国有林に拡大した。

質問・意見なし

環境省（西山）：事務局からの議題は以上であるが、せっかくの機会ですので、ご意見、ご質問がある方がいればご発言いただきたい。

知床エコツーリズム推進協議会（代田）：事務局にお聞きしたいのだが、具体的には決まっていないと思うが、来年度の予算に向けて新たな取組みがあれば教えていただきたい。

環境省（中島）：知床の予算は、全国にある世界遺産と言う枠組みで予算をとっているため、知床で新たに予算をとるということはない。しかし、知床の予算は、世界遺産の中で、他の地域に比べれば手厚くついている方である。そのため、決まっている予算の中で組替えて事業を実施することとなるが、来年度は赤岩地区昆布ツアーや知床半島ヒグマ保護管理方針の改正のために予算を使うことなど考えている。

林野庁（萩原）：説明にもあったが、隣接地域のエゾシカの捕獲に取り組んでいきたい。昨年度からエゾシカの捕獲に、公共预算を使うことができるようになったので、今までより一層力を入れていける。

環境省（西山）：また、来年度は世界遺産登録から 10 周年なので、そのための事業も行ってまいりたい。

環境省（中島）：何か具体的にお困り点があれば教えていただきたい。

知床エコツーリズム推進協議会（代田）：具体的な話があるというわけではないが、世界遺産登録から 10 周年が経つので、新たな取組みがあるのか知りたかった。

羅臼町（田澤）：林野庁による隣接地域におけるエゾシカ捕獲は、羅臼町の春刈古丹で行われていたが、今後はウトロ側に捕獲事業がシフトしていくようで、羅臼側での捕獲は行わないのか。

林野庁（萩原）：春刈古丹では、160 頭余り捕獲して一定の成果が得られたことから現在、捕獲を休止しているが、自動撮影装置を設置して個体数の変動をモニターしており、大きな変動が見られる場合には捕獲再開も想定している。ウトロ側隣接地域は、今まであまり捕獲を実施していなかったことから実施するものである。

林野庁（倉田）：エゾシカ捕獲のための林道除雪であるが、羅臼側でも要請があれば検討したいと思う。

オホーツク総合振興局（和田）：「知床五湖冬期利用促進事業」で、この資料では、今年の冬の実施予定となっているが、実施内容やスケジュール等について、今時点でわかっているならば教えていただきたい。

知床エコツーリズム推進協議会（代田）：今後、全体的な協議会を立ち上げて、事務局レベルでこれから詰めていく。基本的な部分は検討会議で決まっており、事業実施までにできるだけ早く詳細の検討をする、というスケジュールになっている。

以上